

No. 196

H15年10月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100

帰宅

施設長 松田 健

帰宅することを楽しみにしている利用者が多いことは言うまでもありませんが、帰宅の日が近づくと、おかしくなる自閉症者も多いように思います。

三日前に帰宅のサインを出してくる人に「あと三日したら帰宅だよ。」と指を折って教えてやると、「帰宅」だけの言葉が頭に入り、すぐに帰れると思いついでいるものですから、あとの三日間はとても状態が悪くなります。親切で教えたスタッフは、意地悪な嘘つきおじさん、おばさんとなつてしまします。彼は、天国から地獄へと突き落とされ悶々とした三日間を過ごすこととなります。

スケジュール表を使い、帰宅日を提示することにより理解できる人もいますが、何度も何度もその日を確認するという新たな「こだわり」が生まれる人もいます。変

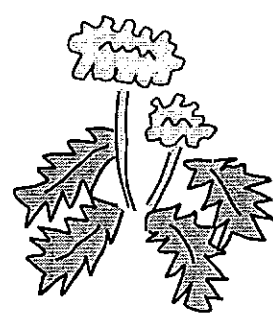
点もあります。理解できる人の中には前日になると意識しすぎて興奮し眠れなく人もいます。言語能力がなく、指示理解力も乏しいと思われる人も帰宅日は分かるようです。パターン（金曜日にはクラブ活動があるなど）から分かるのか、全体の雰囲気から分かるのか、そもそも理解力が乏しいという判断が間違いなのか私には分かりません。帰宅前日になると、クルクル回ったり、声出しが多くなったり、水飲みが激しくなったりしてハイな状態となり眠れなくなります。

他には、朝三時頃に目を覚ますなど早送りになる人もいます。そんなこんなでやっと帰宅します。平穩無事に過ごす方もいるでしょう。

しかし、施設では封印されていた「こだわり」行為が一気に噴出する人も多いようです。衣類を水につける、味噌、醤油などの食べ物

を捨てる、水遊びを一日中する、声出しが止まらないため保護者が人のいないところまで連れて行き気が済むまで叫ばせる、ドライブを要求するため一日に二、三〇〇キロ走行する・・・などなど。食べ物に関してはあります。特に食「こだわり」があります。特に食べ過ぎることに関して保護者の方はとても苦労されています。施設に戻ってくる日、利用者はすべてをやり尽くしたというスッキリした顔をして帰って来る人が少なからずいますが、保護者は疲れてゲツソリしている方が多いように思います。施設職員として感謝の気持ちを忘れずに「お疲れ様でした。」と言うのが精一杯です。人生の最後みたいな顔して帰ってくる利用者もいます。数日は、入眠が遅くなり、つば吐き、服破り、顔こすりが見られたり、水飲み、トイレが頻繁になったりします。

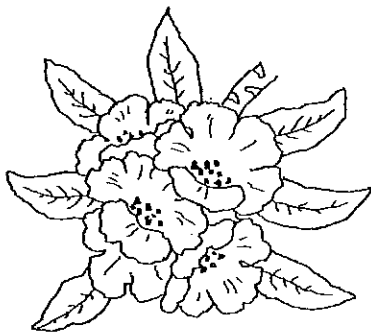
以上のような状況が年々驚くほど改善しています。彼らの成長の証しです。家庭でのご苦労も随分



と無くなったと言われる保護者も少なくありません。しかし、保護者に頭が下がりますといった言葉だけで済ませるのでなく、家庭でも施設でもどこでも同じように過ごせるようにしていくのがわれわれの仕事であると強く思っています。

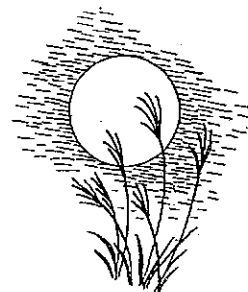
「入れっ放しのぬるま湯の中では、子どもがポロポロになつてしまふ。生き生きするには、生活を施設、家庭、社会の輪の中で位置づけることです。」

創設者である田中稔先生の施設建設時の理念が胸に響いています。





すーゆーに班



3 班・GO?or 5?

まだまだ暑い日が続きます。そんな中、私達3班は毎日、額に汗して頑張っています。夏野菜の収穫も一段落し、次の作物の種まきの時期です。その種まきの後、大切なのが水撒きです。たっぷり水を撒くために、「1・2・3・4・5」と数える間、水を撒くようにしています。隆博さんや佐々木さん、泰彰さんは自分で数えながら水を撒いてくれています。そんな、水撒きのプロの佐々木さんに種まきをして貰った時のこと「種は2粒ね」と伝えると「1・2」と数え一粒ずつ種を穴に入れた後「ゴー」と言いながら土を被せ次へ。その「ゴー」が「5」なのか「GO」なのか、定かではありませんが、そんな掛け声をかけながら撒いた種に今日も水を撒きます。秋頃には、きっと美味しい野菜になっている事でしょう。

菊池

4 班・喜び

“喜び”とはどのような時、感じるものなのでしょうか。喜ぶという感情が体に与える影響はどんなことがあるのでしょうか。

最近の4班メンバーは作業に喜びを感じている、そのことがきっかけで情緒面の安定・健康にもつながっている…スタッフの私から見てそう感じる方が多数いらっしゃいます。例えば、富田さん。彼は今年度になり、紙すきハガキ・名刺を一人で作れるようになりました。昨年度は無地だったハガキや名刺が、今年度は1枚1枚、彼の感性で彩られた色鮮やかな物に仕上がり、売れ行きも上り調子です。自分が作った製品をお客様が「きれいね!」と言って買って下さる姿を見たり、スタッフや4班メンバーからも羨望の眼差しを受け、この半年で彼は日に日に自信に満ちた表情になっていきました。今、彼は、紙すき作業を「楽しい!」と言い、張り切って楽しそうな表情を浮かべながら作っています。毎年、情緒的に不安定になる時期も、安定して過ごす事ができました。

喜ぶという感情が彼に与えた物、皆さんに伝わりましたか?彼は作業で感じた喜びをきっかけとして、今、心も体も安定した生活を送ることができています。そんな彼の姿に私自身喜びを感じ、一緒に作業を頑張っている毎日です。

平山

さんサン工房・開所一周年

利用者の就労を目的とし、作業班と社会(就労)への足がかりとしての機能を持つという位置付けの元、昨年9月にさんサン工房がスタートし、早一年が過ぎようとしています。現在も皆さんそれぞれ目標をもち、プライドを持って仕事に取り組まれています。

仕事以外の面でも、夏祭りでの模擬店の出店(話し合い~準備まで)、公共施設の利用、地域の祭りへの参加(盆踊りの練習~大会)等社会性の向上も合わせて目的としています。

今回、皆で一周年記念もかね、フランス料理を食べに行こうという事になり「お給料をすこしづつ積み立てよう」、「マナーを身に付けよう。(ゆっくり食事を楽しむ)」という事を話し合いました。その為普段の食事も、みんな気を付けれるようになりました。後は、予約を入れて…

さあ、フランス料理はもうすぐですよ。

中牟田

2 班・汗まみれ

夏季帰宅訓練を終え、いよいよ後期のスタート。今年は例年以上に残暑が厳しく過ごし難い日が続いています。そんな中、我々の強い味方クーラーは必需品ですね。しかし、ある日トラブル発生。2班作業棟のクーラーが故障してしまい室内は蒸し風呂状態。勿論、この時期、窓を全開にしても入ってくるのは温かい風ばかり、それでも注文の製品を仕上げる為には手を休めるわけには行きません。みんな外作業班に負けないくらいの汗だく状態になりながらも1日のノルマを達成。その日のおやつは運のいいことにアイスクリーム。クーラーの効いた部屋で食べるのもいいのですが、汗をかいてのアイスも格別な物で、この時ばかりはみんなの顔にも笑顔が戻ってきました。数時間の出来事でしたがダイエットになったかも？と思うのはスタッフの都合の良い考え、利用者は二度と御免が本音。(今のところ故障も直りクーラーフル回転中)

阿南

通所部・「できないことはない」

通所部メンバーの赤星さんと作業に取り組む中で考えさせられたことをお伝えします。

赤星さんは現在、作業の中で部品をケースに取り分ける作業を行っています。ケースに取り分けるといっても、ただ単に分けるのではなく、部品を同一方向に2列に並べるといった内容です。取り組み当初は、部品を同一方向に並べることが難しく、そのためスタッフは何度も何度も向きを訂正し、赤星さんは何度も何度もやり直しをしました。その結果、今ではスタッフの支援は必要ではありませんが、自ら部品の向きを合わせることができるようになりました。実を言うと、この作業を行う前は、ただ単に取り分けるだけの作業をさせていました。それは、赤星さんにとって「難しいからできない」ということを理由にしていたからです。「できることはやろう」と口では言っても、させていなかったのは私自身でした。“完全にはできなくても、支援があればできないことでもできるようになる”そんな当たり前のことができていませんでした。今回、赤星さんと作業に取り組む中で、その事をとても反省させられ、考えさせられました。

できないことはありません。支援の仕方によってはどんなことでもできるようになると思います。日々の暮らしの中では見えにくくとも、たった半年を振り返っても着実に身に付けられている事を実感しています。課題は沢山あるかも知れませんが、できない事もできるように、一つ一つ皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

松本慎

1 班・「上半期を終えて」

夏休みも終わり、あっという間に下半期に突入しました。今年度、新体制により23名の大所帯となった1班。当初どうなる事かと心配ばかりしていましたが、何とか流れができ、集団もまとまり、作業もスムーズにできるようになりました。上半期、初めて軽作業を経験することになったメンバーも日に日に腕を上げ、今では主力メンバーになるまで成長しました。そのような上半期のみんなの成長に伴い、作業課題も「確実に製品化する」ということに加え、「報告」についての取り組みを始めています。内職の手作業とはいえ、決して自分一人ができれば良い訳ではありません。それぞれが“協力”して初めて製品は完成を迎えます。そして、それは社会生活にも通じる事です。基本的な作業能力の向上や収入確保だけでなく、広い視野での目標を持ち、下半期も取り組んでいきたいと思っています。

麻生



「行動について考える

②常同行動

木下 昭二

自閉性障害の人達の示す行動の特徴の一つに常同行動・同一性保持行動が見られる人がしばしばあります。一般的にはあまり聴き慣れない言葉ですが、今回はこの常同行動について考えて見たいと思います。

自閉性障害の人達の中には、想像力が必要なふり遊びやごっこ遊びが出来ない、おもちゃもその本来の機能に見合った使い方をせず(例：自動車のおもちゃを走らせず目の前でくるくる回して遊ぶ・または逆さまにして、タイヤをだけを回し続けて楽しんでいる等)感覚刺激を得ることに没頭したりするなどの特異的な行動が見られたり、独特の強いこだわり(興味の著しい偏りや儀式的・反復的な常同行動)があり、そのこだわりの対象・行動は一人一人によって全く違ってきます。常同的な事では、手をヒラヒラとさせる事や同一性保持的な事では、物を置く位

置が決まっています。そこには置きかえない。A地点に行くときには必ず同じ道順でしか行こうとしないなどがあります。

この常同行動について、ある先生は、「最初は混沌とした世界の中での自己刺激であろう」と述べられています。自閉症児は周りで起きていることを理解出来ない。生後2ヶ月の赤ちゃんは、すでに人の声と機械の音を聞き分けられるという。もしこのような「聞き分け」が出来なければ、雑音と声が雑多に入り混じった世界である。この「雑多な情報から」逃れるために、自分の常同行動で安定した刺激を作り出しているのではないかと。最初の常同行動は、このように自己刺激から始まる。と説明されています。

三気の里でも同じように常同行動として体を前後・左右に揺る行為を繰り返される方や、食堂へ移動する際は必ず大回りして西側の廊下を通ってからでないと行かない、といった利用者の方がおられました。しかし、三気の里では現在このような将来行動障害に繋がるような行為・行動はゼロにす

ることを目標にスタッフ間の意識を統一して取り組んでいます。(詳細は、先月号で麻生スタッフが述べていますので今回は省きます。)

中には常同行動も、「害が無いから」や「他者に迷惑がからないから」と言った理由で特に対処する必要は無い。それをさせておけば落ち着いて(安定しているので)いるので好きにさせておけば良い。と言われる方や思っておられ方も多いと思います。しかし、『最初』は少し或いは単なる一つの遊びと思っていた行動も徐々に、段々と時間が長くなったり、動き自体が大きくなつていき、最初は声かけで止まっていたことが止まらなくなる。早朝に、或いは深夜にも起き出してやるようになったりすると、本人は『安定』していても家族の生活は破綻してしまうことも考えられます。そういった状態に陥ってから止めようとしても、一旦、脱コントロール状態に入ってしまった本人の体は、自分だけでは止めることが出来なくなり、果ては、したくないのに体が動いてしまう。または、薬に頼らざるを得なくなる、たとえ止められたと

しても、それに代わる別の刺激を求めようとして声出しや自傷行為等、それこそ先月号で麻生スタッフが述べているような悪循環に陥ってしまう可能性があります。もし、「うちの子はまだ小さいから」や「うちの子の常同行動はそこまでひどくないから」と思っておられるご家族の方が居られたら、今のうちだからこそ対処すべき(出来る)行為・行動だと受け止めていただきたいのです。

数十年前までは、親の育て方が原因で発症する障害であるといわれた時期があり、現在ではこういった考え方が誤りであり、「脳の器質的な障害」によって起こる生涯であるということは周知の通りです。が、しかしその障害をどう捉え、一つ一つの行為・行動の意味をどう理解し、どう対処していくかは、難しいとは思いますが、ご家族の方や関わる側が選択していかなければなりません。何を信じて良いのか。どの本が正しいことを言っているのか、判断することすら難しいことだと思えます。是非、今だけでなく、この子に将来(成人した時)どうなってもらい

たいのか、その為には今から・これからどういった対応を心がけるべきなのかを見据えて取り組んで頂きたいと思えます。微力ながら三気の里もそのお手伝いが出来れば：と思っております。



スポーツ大会（ペタンク）

去る9月7日（日）に施設親善スポーツ大会が行われ、3種目（ペタンク・キックベースボール・ミニバレー）に分かれて競技されました。我が三気の里はペタンク競技にAとBの2チーム12名で参加しました。予選が2試合行われ、Bチームは本番独特の雰囲気ながら緊張を隠せず、普段の力を発揮できず残念ながら予選敗退。そして、Aチームは組み合わせが良かったのか、実力が上回ったのか、見事予選突破を果たすことが出来ました。残念ながら決勝トーナメントは1回戦負けに終わりましたが、普段経験しえない雰囲気、勝つことの喜びを感じてくれたこと

と思えます。来年はもっと高みへいけるよう頑張って練習していきましょう。

利用者感想

投げ方を大分覚えて上手に投げられるようになった。来年はもっと良い成績がとれるように頑張る。

坂本

自治会発足

石丸 直美

ついに三気の里に自治会が発足されました。この場を借りて自治会のメンバーを紹介させていただきます。会長：中嶋さん、副会長：橋村さん、福嶋さん、書記：伊石さん、剛さんの5名です。この自治会発足までの道のりは「自治会ってなに？」というところから始まり、とても長いものでした。自治会と言うものがどういうものかを捕らえる事が出来た後に「どんな人たちにしたいのか」、「どのように決めるといいのか」といった、いくつもの疑問に関して利用者間で話し合いを重ねました。そして7月に全利用者で投票を行い、その後も投票で決定できなかった

為に再度話し合いの場を持ち、やっと発足できました。初めてのことでまだまだ前途多難ですが、自治会のメンバーは自覚を持ち、やる気を見せています。そんな彼らの姿が頼もしく、今後がとても楽しみです。

意気込み！

会長・中嶋

会長になり、皆と仲良くしようと思う。けんかしないように自治会をまとめていきたい。

副会長・福嶋

初めての事なので、少し不安もある。楽しい雰囲気にしていきたい。グループホーム目指したい。

副会長・橋村

開園祭で頑張りたい。大丈夫。

書記・伊石

今、始めたばかりなので、これから積極的に取り組んで行きたい。グループホームに行きたい。

書記・田中剛

みんなの期待に答えられる様頑張ります。

食堂営業中

今回は秋が旬の「さつま芋。」

ピタミンB1、B2、C、カリウム、食物繊維が豊富。特にピタミンCは柑橘類に負けないくらい多く、熱にも強い。便秘解消、風邪予防、高血圧などの成人病予防にも利用したいものです。ふかし芋かき揚げ、かりんとうにして、胸やけを抑える作用のある皮ごと食べてもよいでしょう。注意点は、糖質が多いので、食べすぎると肥満に。ただし、御飯よりカロリーが低いので、上手に食べれば逆に肥満防止に役立ちます。

前田

退職にあたって

田之上健一

この度、7月31日付で退職致しました。三気の里が、開所した時から16年間という月日を利用者の方々と過ごし、たくさんのお出を頂きました。在職中はたくさんの方々にお世話になりました。御礼申し上げます。

10月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日	備考
		1 隆博さんの 誕生日(26)	2	3	4	5	10/19(日) X-JAPAN
6 平野さんの 誕生日(29)	7	8	9 井手上さんの 誕生日(33)	10 登山	11 家族会 長田さんの 誕生日(48)	12	来園予定 10/22(水) ～ 24(金)
13 体育の日	14 田口さんの 誕生日(22) 田中 Dr 来診	15	16 誕生会 たんぽぽ 編集日	17	18	19 福祉祭り	1班宿泊 レクリエ ーション
20	21 鶴崎さんの 誕生日(25) 4班レク	22 宿レク 1班 ←	23	24 →	25 帰宅バス	26 片倉先生 来園 ←	
27	28 →	29	30	31	10日登山, 11日家族会, 16日誕生会, 19日福祉祭り		

実習ボランティア

9月27日、運動会のボランティアの参加に多数来て頂き有り難うございました。また、実習では、長崎純心大学の中尾麻里子さん、熊本学園大学の藤田由花さん、緒方直子さんの3名が実習に来て頂きました。11月8日には、開園記念祭が行われます。是非、ボランティアに来て頂きたいと思えます。御連絡を待っています。 出生

(ボランティアありがとうございます)

*生け花
*ピアノ演奏
*手話ダンス
西村 栄子
井川マリ子
光澤 和代
敬称略



後援会ありがとうございます

谷山 義文
樺嶋 尚志
井島 愛子
森川マサミ
高橋 伸博
古場 雄二
赤星 武
松本三千昭
前田 克英
敬称略

後援会募集のご案内

三気の会では、後援会を募集しています。御入会頂いた方には、毎月発行している機関紙「たんぽぽ」をお送り致します。

《振り込み先》

口座番号..郵便振替

01970・8・14902

社会福祉法人 三気の会 後援会

住所

熊本県菊池郡大津町森54・2

一口 3千円

団体は、1万円より

寄付金ありがとうございます



田中 恭子
岩永 敬清
村上満寿子
敬称略

編集後記

先日、三気の里のグループホームが完成し見学に行ってきました。2階建ての7部屋ある豪華な造りに、皆「すごい」の一言。「グループホームが最終的な目標ではない」ということは分かっています。が、ここならずと住んでいたいと思っていました。 大石